

巻 頭 言

「20年を振り返って」

くらしとバイオプラザ21専務理事 真山 武志



2002年7月22日、正会員社、協力会員並びに関係者のご支援により設立総会の開催にこぎつけることが出来ました。設立準備の段階では賛否両論があり、イノベーション分野として期待できる先端バイオテクノロジーの国民理解活動を促進する団体設立に、どれだけの意味があるか、いつ結果が出せるかと大上段に構えられたご意見を頂きました。一方、設立記念フォーラム「バイオを話そう」では多くの叱咤激励を受け、「生産者のことも忘れるな！」との諫言も賜りました。

当時は、PE（パブリックエンゲイジメント）、アウトリーチ、リスクコミュニケーションなどの言葉はまだ聞かれなかった時代でした。我々の活動は、暗中模索で走りながら考え、考えながら走ってきたように思います。

最初に企画した本格的なイベントは「バイオ＆薬用植物園見学会」（2003年）だったと記憶します。早朝、茅場町を貸し切りバスで出発し、厚労省の薬用植物園（筑波）を訪ねました。美しい草花の姿に魅了されたり、麻薬の原料になるケシやドラッグの危険についてのお話を皆で真剣にうかがったりしました。往復のバスでは、ワイワイガヤガヤしながらも楽しく、かなり深い話し合いができました。こういうコミュニケーションこそ、我々のミッションだと感じ、農研機構のほ場（筑波）見学会も行いました。高校生、学生を狙って、夏の暑い暑い時期、クーラーボックスに冷たい飲み物と救急具を準備して出かけました。帰途のバス中では、遺伝子組換えイネ（花粉症緩和米）と普通のイネの風に揺れる様に全く違いがないのに気づいた、殺虫剤散布キャベツ畑と無散布区域の見るも無残な虫食いキャベツに驚いた、地球環境持続可能なジェット燃料として期待されるSAF設備に興味を持ったなど、様々な感想が聞かれました。日除けが全くない照り返しの強いほ場で、汗を流しながら一生懸命に説明される研究者の熱意に感激し、猛暑でくたくたになった参加者自身の臨場感が重なったように思われました。

「生命のおてがみ」と題した絵本が企画され、色鉛筆画を得意とする中村典子研究員を中心に皆で検討して絵本作りに挑戦しました。子供達への読み聞かせも同時に行いました。1万部ぐらい印刷しました。新聞で紹介されて配布希望が大量に届き、全員で黙々とあて名書きをして発送しました。この絵本の英訳を用い、英語劇として教材にとりいれた学校の先生もおられます。今は残り少なくなっていますが、DNAを「おてがみ」と捉えた中村さんの発想には感心します。

いろいろな実験教室、講演会、双方向の談話会など幅広く活動しているうちに、もっともっと気楽に双方向のバイオコミュニケーションができないかと考え、イギリスで始まったバイオカフェをスタートさせました。沖縄から北海道まで実施し、科学技術白書やNHKでも紹介されました。開催回数は300回を超えました。今でも当NPO法人の看板メニューで、オンライン開催により国内外からご参加いただいています。

企業の社会的責任が謳われるようになり、DNA抽出実験・紙顕微鏡細胞観察教室など、親子で楽しく手を動かしながら学べるプログラムを通じて、企業のCSR活動のお手伝いもさせていただいております。応援して下さる企業会員の皆様に、我々の得意分野であるサイエンスコミュニケーションでお手伝いできれば、こんなに嬉しいことはありません。

時代の流れに沿って当NPO法人も変革し発展しなければなりません。皆様のお声に応じるよう努力してまいります。なお一層のご鞭撻、ご支援をお願いいたします。



筆者紹介

くらしとバイオプラザ21専務理事。元明治製菓常務取締役。

千葉大学薬学部卒業。医薬博士。明治製菓に入社し、医薬品開発に関わる。

くすりをめぐるサイエンスコミュニケーションに早くから関心を持ち、くすりの適正使用協議会やくらしとバイオプラザ21の立ち上げから関わり、現在に至る。



活動報告



事務所から配信された大島・山田両氏

JSSバイオカフェ(全4回)(9月28日～11月28日)

日本科学協会(JSS)が公開している「人間の生命科学」という電子テキストの執筆者により、オンラインバイオカフェをシリーズで行い、毎回100名近い方のご参加がありました。以下の全4回は動画配信されています。「生命とヒトの誕生と進化」

(東京都立大学名誉教授 八杉貞雄氏)

「ヒトの誕生」(日本科学協会顧問 大島美恵子氏)

「遺伝と病気・健康」(元札幌医科大学准教授 山田恵子氏)

「からだの輸送系と免疫のしくみ」

(実践女子大学教授 山崎壮氏)



日本リスク学会年次大会参加(11月12日)

2022年11月12日、第35回日本リスク学会年次大会 企画セッション「ゲノム編集食品のリスクを議論する」を食の安全と安心を科学する会(SFSS)と共同で企画し、参加しました(ハイブリッド開催)。京都大学 木下政人氏、大阪公立大学 小泉望氏、大阪大学 村中俊哉氏、くらしとバイオプラザ21 佐々義子の4名からの話題提供の後、SFSS山崎毅氏の司会で、意見交換を行いました。



(写真提供 宮城県環境と生活部)

宮城県 食の安全安心セミナー(12月5日)

表記セミナーで遺伝子組換え食品のお話をさせていただきました。とても寒い日に、みやぎ食の安全安心消費者モニターをはじめとする一般県民の方が、県庁講堂に多く集まりました(動画配信あり)。遺伝子組換え食品というテーマは参加者の要望から決まったそうです。当日は、遺伝子組換え技術、安全性、海外の状況、4月から改訂される食品表示と、2時間のプログラムでしたが、最後まで熱心に受講され、質疑応答も活発でした。

治験・倫理審査委員会委員研修(1月23日)

順天堂大学医学部附属順天堂医院 臨床研究・治験センター主催研修会「治験・倫理審査委員会委員研修～研究倫理と倫理審査の基礎を見直そう～」が開かれました(厚生労働省 臨床研究総合促進事業「臨床研究・治験従事者等に対する研修プログラム」の一環)。全国から約80名の倫理審査委員会委員、事務局関係者らが参加しました。演習パネルディスカッション「「審査のポイント」を各委員の立場から考える」に参加し、「一般の立場の委員」としての意見を述べさせていただきました。



(写真提供臨床研究・治験センター)



コンシューマーズカフェ(1月24日)

フーコム代表 森田満樹氏をお迎えし、「食品表示の見直し状況 2023年4月施行～遺伝子組換え食品表示制度の改定で何がどう変わる?～」というタイトルで、4月から改訂される遺伝子組換え食品の表示を中心にお話いただきました。参加した生協関係者からは「分別生産流通管理」の意味の説明を組合員にしながら、1000を越えるアイテムの表示改訂を進めたご苦労が語られました。遺伝子組換え食品の安全性確認の仕組みが理解されていない、表示を見ていない人が多い、本当に消費者に役立つ表示はどんなものだろうかと、活発なディスカッションが行われました。

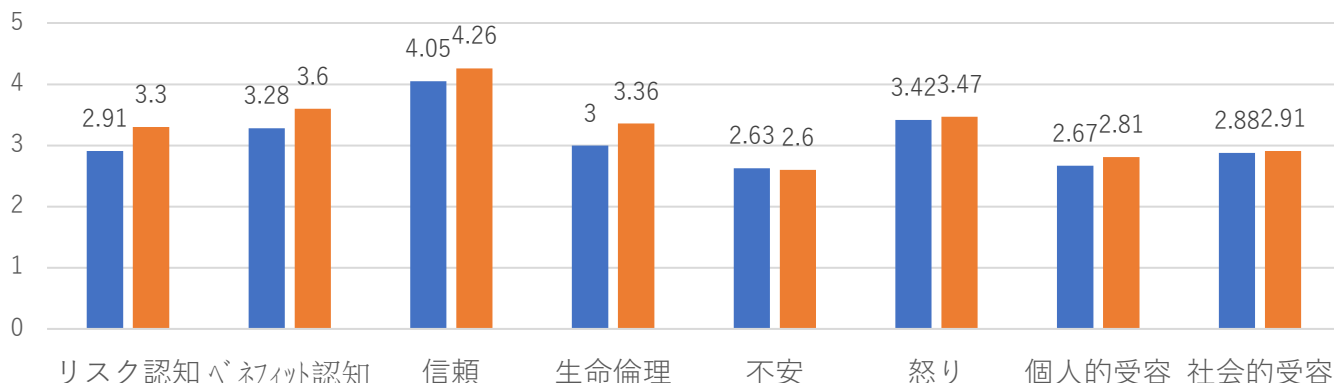
生協の皆さんとのオンラインワークショップ

2023年4月から遺伝子組換え食品の表示が17年ぶりに改訂されます。表示改訂を前に、遺伝子組換え食品の安全性の考え方も含めて、生協の皆さんとワークショップをいたしました。講師は3回とも、フーコム代表森田満樹氏です。前後のアンケートでは、不安項目以外の項目で参加者がポジティブに受け止められたことがわかりました。最もポジティブな時を5としました。(青:事前、赤:事後)

(1) 10月26日(水) コープこうべ組合員理事、組合員、本部の皆さん 計20名

(2) 12月8日(木) 京都生協組合員理事の皆さん 計33名

(3) 12月12日(月) 東海コープ事業連合本部スタッフ(品質保証部等)・コープぎふ・みえの皆さん 計16名



バイオカフェ

11月18日

オンラインTTCバイオカフェ「血液からわかる、今のあなた、明日のあなた?!」(株)フォーネスライフ 藤沼俊則氏



1月21日

多摩六都科学館 大人のバイオカフェ「しょうゆのサイエンス」キッコーマン株式会社 研究開発本部 内田理一郎氏



2月17日

オンラインTTCバイオカフェ「感染症から考える“ワンヘルス”」東京大学大学院農学生命科学研究科 芳賀猛氏



総会記念講演会

日時 2023年5月11日(木) 15:30-16:30

場所 銀座フェニックスプラザ

「“五類感染症”引き下げの意味すること(仮)」

川崎市健康安全研究所 所長 岡部 信彦氏

岡部先生には、2007年「はしか」のバイオカフェ以来、感染症、ワクチンについて、教えていただき、昨年の総会記念講演会では「ウイルスが嫌うのは人の優しさ」というお話をいただきました。そのお忙しい岡部先生が今年もおいでくださいます！

2023年5月8日、コロナウイルスは五類感染症になります。五類になることの意味は何でしょうか。私たちはどのようにしたら「正しくおそれる」ことができるでしょう。共に学び、考えたいと思います。

【プロフィール】医師(小児科・感染症学)。WHO伝染性疾患予防対策課課長、慈恵医大小児科助教授などを経て現職。現在、厚生労働省新型コロナウイルス感染症アドバイザーリーボード委員、内閣官房新型コロナウイルス感染症対策分科会 構成員など。

※ 対面での開催を予定しております。参加ご希望の方は、氏名、ご所属、メールアドレスをご記入の上、下記までメールでお申し込みください。E-mail:bio@life-bio.or.jp



サイエンスアゴラ2022

2022年11月6日、サイエンスアゴラ2022でワークショップ「みんなでコロナと戦うために～学びあいと分かち合い」を開きました(於 テレコムセンター)。消費者代表として大学院生、子どもを預かる立場の保育園、フードラインを支えた生協、職域接種を実施した企業から、「我、コロナとかく闘えり」というスピーチを頂きました。そして、岡部信彦氏(神奈川県健康安全研究所 所長)から、コロナの中で、医療行為以外で私たちにできることについてのお話がありました。世代、分野を越えて充実した話し合いができ、最後には全員でアマビエ絵馬を書きました。



講師派遣報告 2022年9月～2023年2月

- 9月27日～1月10日 東洋大学大学院「科学コミュニケーション特論・演習」講義
- 9月21日～12月21日 神奈川工科大学大学院「サイエンスコミュニケーション」講義
- 10月17日 同志社大学「ゲム編集食品 社会実装の実例と現状、これから」講義
- 11月12日 日本リスク学会 企画セッション「ゲム編集食品のリスクを議論する」
- 11月13日 日本リスク学会 ポスター発表「ゲム編集食品のリスクコミュニケーション」
- 12月5日 宮城県 食の安全安心セミナー「遺伝子組換え食品」講演
- 12月23日 神奈川工科大学「バイオ製品科学」講義
- 1月10日 東洋大学「植物バイオ」講義
- 1月23日 治験・倫理審査委員会委員研修 パネリスト参加
- 2月5日 日本サイエンスコミュニケーション協会 サイエンスコミュニケーション実践講座 講演



入会のご案内

私たちの活動を応援して下さる協力(個人)会員を(1口 2,000円～)常時募集中です。会員になるとイベントに関する情報が優先的に得られたり参加費が安くなることもあります。もちろん、バイオレーター(紙媒体)もお届けします(2回/年)

編集後記：サイエンスアゴラ2022は2年ぶりにお台場での開催でした。ご多忙な岡部信彦先生が現地において下さったことへの感謝は表しきれません。2年ぶりの現地開催への主催者の戸惑いを、様々な立場の方が関わり、支え、消し去って下さったこともとても嬉しいことでした。研究、行政、産業、教育関係者が発言し、学生・院生も大活躍でした。参加した学生・院生にとっては、普段は接することができない「大人たち」から直接、話を聴き言葉を交わせたことが、とても印象に残ったようです。逆に「大人たち」からも、「前向きな若者たちに逢えて、日本の将来に期待が持てた」というお声も頂きました。くらしとバイオプラザ21は、昨年、お陰様で、20周年を迎えました。2022年度のサイエンスアゴラは人と人の関わりこそが私たちの原点であり、目標だと再確認させてくれた”ご褒美”のようなイベントでした。

特定非営利活動法人 くらしとバイオプラザ21

<http://www.life-bio.or.jp>

編集 佐々義子・二瓶美郷

カット 中村典子

〒103-0025

東京都中央区日本橋茅場町3-5-3

日宝茅場町ビル8階

電話：03-5651-5810

FAX：03-3669-7810

e-mail: bio@life-bio.or.jp

